

1. 2015年度の事務部の行動目標

企画総務室「オールみすみで乗り切ろう!!」、医事室「分析・提案スキルを伸ばし、経営改善へ貢献する」、診療情報管理室「充実した診療録作りと正確なDPCデータ作成」、医療相談室「無料低額診療事業の推進・相談スキルの向上」、地域連携室「連携先への細やかな気遣い」、居宅介護支援事業所「契約者数30名突破」と各々にスローガンを定め、病院の基本運営方針である「現有資源の最大活用」活動を実践した。2015年度の具体的な戦略は下記の通り。

①顧客満足度の向上

- ・WLB活動とタイアップした職員満足度をめし、実態調査と対策立案の実施
- ・健康フェスタの再構築→本部協賛に伴い広報活動の強化
- ・外来患者への情報提供見直し
- ・待ち時間短縮への現状把握と対策立案・実施
- ・無料低額診療事業の拡大→職員の理解促進→起案件数の増加＝困窮者の拾い上げ促進など

②業務の効率化と質の向上

- ・社会福祉会計基準への対応に伴う業務基準の見直し
- ・入札業務基準の徹底
- ・社会福祉法人会計移行に伴うシステム改編
- ・入院診療計画書作成の完成率向上
- ・DPCデータ作成に伴う環境整備（DPCNAV Iの使い勝手向上へ）
- ・連携先への定期訪問（連携促進&無料低額診療事業促進）
- ・在宅患者への支援強化（当院・関係機関との連絡調整を図る）
- ・アセスメントマニュアルの見直し（業務効率化を目指す）
- ・FAX紹介マニュアルの見直し など

③スタッフの成長・育成

- ・自己啓発の推奨・支援（朝礼など簡易発表機会の創設など）
- ・パソコンスキルの習得（Excel, Accessなど）→院内勉強会の開催
- ・院外研修会参加→部署内報告会の励行（研修情報の共有）
- ・診療情報管理士資格取得
- ・プレゼンテーションスキルの向上→患者の理解度向上を目指す など

④収益性向上と経費の低減

- ・出前・健康講座の拡張による診療圏の拡大
- ・高度急性期医療機関へのアプローチ強化
- ・次年度診療報酬改定対策への早期情報収集と対策着手
- ・通所リハビリ開設準備に対する介護報酬制度把握
- ・未収金回収対策の強化
- ・Facebook、ブログなどによる情報発信の強化による集客力向上
- ・DPCデータ活用による医療戦略の検討手段の構築など

2. 2015年のトピックス

①2015年行動計画書の策定

前年同様グループウェアを活用し各部署の行動計画書を策定した。また全職員を一堂に集め説明会を開催し、今年度行動目標の周知徹底を図った。（7/2）

②通所リハビリテーション事業検討キックオフ（4/17）

キックオフ会議を開催し、あるべき姿について検討を開始した。定期的に開催するとともに先進施設を見学するなど情報収集を図り、次年度開業に向けた準備を進めた。

③済生会九州ブロック親善ソフトボール大会主催（5/16～17）

初めて当院が九州大会を主催することとなり、前日の懇親会を阿蘇市内牧のプラザホテル、大会を阿蘇市農村公園アピカにて開催した。前日まで雨が降り当日の開催も危惧されたが、天が我に味方し当日のみ晴天、翌月曜日からまた雨天という奇跡に恵まれた。職員の懸命なグラウンド整備等協力により円滑に大会を運営することができた。試合は最終戦で熊本に敗れ、初の九州制覇は果たすことができなかった。

全国済生会親善ソフトボール大会初出場（10/11）

今年の全国大会が熊本病院主催で開催され、九州大会と同じく阿蘇市農村公園アピカにて開催された。九州大会では優勝を逃したが、特別枠として全国大会に初出場することとなった。結果は初戦で山形病院に敗れ全国の壁の高さを痛感することとなったが、選手にとっては自分たちの不足点を実感できる結果となり、次年度に向けて軌道を締めなおす良い経験となった。

④院内研修会開催

今年度も活発に院内研修会を開催し、スタッフの知識向上を図った。またその参加実績を所属長にフィードバックし、今後の指導に役立ててもらっている。

- ・認知症対応能力向上研修会（6/5、7/24）

なり、みすみ病院まで救急搬送され、脳卒中と診断された。

3. 経営分析

【損益計算書から】

今年度より社会福祉法人会計となり従来の病院会計準則からの移管で、財務会計上の収支は大きな修正を余技なくされた。助成金を含み医薬収益は外来診療における高額医薬品使用により2,789,791千円となり対前年で+10.5%と増収にはなった。それに対し費用も2,724,609千円と対前年比+7.4%増加した。

入院収益：1,480,595千円であり対前年で-4.5%の減収となっている。要因は1月からの病棟改修による使用病床数削減の影響もあるが、2014年より続く一般病棟の患者不足と単価の低迷の影響が大きい。これを打開するために4月より一般病床数を10床地域包括ケア病床に使途変更した。これにより地域包括ケアの入院患者数や収益は増加したが、新規入院患者の不足が続いており、一般病棟の単価引き上げにはつなげていない。1月より耐震・病棟改修工事に入ることより、各病棟種別とも病床利用率90%以上を目標と定め、病床管理を病棟看護師長に一任する権限を院長が通達した。年明けより高い病床利用率も実現できたかに見えたが、病棟におけるインフルエンザ流行により病床利用制限となり、救急ストップが続くなど新規入院患者獲得が増加せず思うほどの成果には繋がらなかった。

外来収益：初診患者数が-406名通減していることが気になるが、高額医薬品の使用により外来診療単価は+5,065円増加し、外来診療収益は1,159,243千円と大幅に上昇し、入院のマイナス分を補填した。

医薬費用：全体では+2.0% +194,925千円増となっている。この要因は外来診療における高額医薬品の使用による医薬品費の増加にある（769,925千円 対前年比+34.9% +199,370千円）医薬収益率で見ると医薬品比率のみ22.6%→28.7%と大きく上昇している。その他の勘定科目では大きな変動は見られない。

サービス活動収支：社会福祉法人会計では助成金による収益をその他の医薬収益として計上するとともに、本部に積み立てる退職積立金や共済掛金は拠点

区分間繰り入れとして、人件費より移管される。よって今年度のサービス活動収支は138,395千円の黒字決算となった。

【貸借対照表から】

流動資産

現・預金：+188,199千円の増加。ただし次年度に1階病棟改修工事費用の120,000千円程度の支出が生じるため、実質的現預金の増加は60,000千円程度と考えるべきである。

固定資産

無形固定資産：減価償却と減価償却基準の見直しによりほとんどの固定資産勘定が減少し、合計で-194,788千円減少した。

流動負債

買掛金：+74,696千円の増加

外来での高額医薬品使用による買掛金増加。

固定負債

国庫補助金等特別積立金：-249,353千円

会計基準の変更により過去の補助金整備分の取りくず費が求められ、さかのぼって修正したため。

その他の積立金：-1,694,822千円

当院を国より購入した際の必要経費を新会計基準に沿って精算したため。

社会福祉法人会計では助成金を医療収益として計上し、人件費より「退職積立て」「共済掛金」をサービス活動外費用として移管するために医薬費用が減少し、黒字の良好な成績に見える。

しかしながら従来の病院会計準則に準じて収支を見ると今年度は-53,683千円の赤字決算となっており、特別交付税で資金収支も回っている状況となっている。

2016年5月で改修工事も終了し、6月より病床数128床（一般43床、地域包括45床、回復期40床）で再スタートする。各病床種別とも利用率90%以上を目指し円滑な病床運営は必須となる。また新しい事業として通所リハビリ事業も開始する。訪問リハビリに続く介護保険事業であり、利用者確保を進め、次年度は3年ぶりの「助成金抜きでも黒字決算」を迎えなければならない。

- ・救急蘇生法講習会 (6/17、6/24)
- ・感染研修会 (7/1、7/8)
- ・接遇研修会 (8/18、8/26)
- ・医療安全研修会 (9/3、3/9)
- ・医療倫理研修会 (9/17、3/3)
- ・口腔ケア研修会 (10/20)
- ・院内暴力・クレーム対策研修会 (10/29)
- ・感染対策研修会 (12/2、12/9)
- ・クリニカルパス研修会 (12/22)
- ・QC活動勉強会 (2/17)
- ・無料低額診療事業研修会 (2/22)

⑤電子カルテ Ver Up作業 (6/24)

電子カルテの Ver Up作業を実施した。当日は救急ストップとしたが、大きなトラブルもなく終了することができた。

⑥休日の外来診療オープンと weekday の休診

外来診療オープン

- 5/6日 前週の4/29日(水)と2週続けて水曜日が休診となるため
- 9/21日 暦の通りだと9月の外来診療日が19日と基準と定めた20日を割り込むため
- 12/30日 前週の12/23日(水)と2週続けて水曜日が休診となるため

外来休診

- 8/14日(金) 毎年盆で患者が少ないこの日を上記の振替休日として休診とした

⑦看護学校訪問 (8/26~28)

2016年3月の卒業する看護学生の獲得のために、「天草方面」「八代方面」「熊本・玉名方面」をそれぞれ1日かけて看護学校へ就職案内を持参し、学校の担当者とのコンタクトを深めた。

⑧救急隊との症例検討会 (9/8)

毎年恒例の救急隊との症例検討会を開催した。救急隊の当院への搬入症例で関心が高いものについて情報の提供を行いながら、今後のための意見交換を行った。

⑨健康フェスタ2015開催 (10/25)

本部からの支援もあり今回はマスコミを活用した方向に注力した。理事長も参加いただき、特別講演には地元住民が数多く詰めかけ、立ち見も散見され済生会への期待の高さがうかがえた。最終来場者は初めて1,100名を超え、大盛況のうちに終了することができた。

⑩地域奉仕活動

今年は職場改善委員会主催で清掃奉仕活動を2回開催

した。

10/4日：前年に引き続き海水浴シーズンが終了した戸馳の若宮海水浴場の清掃奉仕を実施した。

3/5日：恒例となっているパールラインマラソンコースと今回より世界遺産に指定された三角西港を清掃場所に加え、2班に分かれて清掃奉仕活動を行った。

⑪上天草看護学校実習生受入れに関する調整会議 (12/20)

2016年度より上天草看護学校からの実習生受入れを進めるため調整会議を開催した。次年度より看護学校より実習生を受け入れることとなり、指導する立場となるスタッフの意識も高めていかなければならない。

⑫耐震改修、1階病棟・通所リハビリ室改修工事着工 (1/15)

2016年5月末の竣工を目標に着工した。工事期間中は1F病棟を閉鎖し、全体で116床での病棟運営を強いられた上に、入院患者へのインフルエンザ蔓延防止対策により新たな入院患者受入れに制限が入った。また工事期間中の騒音や異臭など良好な入院環境とは言いがたく、スタッフだけではなく入院患者にも迷惑をかけた。

⑬QC大会開催 (2/17)

今年は4チームがエントリーし、2チームの歯止め報告と合わせて6チームのさびしい大会となった。各チームとも成果は均衡し審査員を悩ませる結果となったが、最優秀賞は「病棟における転倒転落発生件数の抑制」をテーマにリハビリ室谷口主任をリーダーとして取り組んだ「回復期リハ病棟 転倒転落予防サークル」が獲得した。回復期リハ病棟は疾患や傷病により身体機能が不自由な患者さんが、残された身体機能をフル活用することで自宅復帰を目指す病棟である。つまり入院している患者は「転倒・転落」のリスクが高い患者しかいない。今回の取り組みは他病棟でも活用できるものであり、ノウハウの広がりを期待したい。

⑭診療報酬改定対策プロジェクトキックオフ (2/24)

2016年度診療報酬改定に対する戦略検討のプロジェクトを開始した。具体的な注力内容をまとめ3/30日に全職員への説明会を開催し、周知徹底を図った。

⑮天草パールラインマラソン大会支援 (3/13)

今年も熊本病院の協力を受けながらパールラインマラソン大会の支援を行った。双方の施設より28名のスタッフが救護伴走ランナーやAED隊としてランナーのサポートを行い、幸いなことにけが人0で大会は終了することができた。ただ応援していた観客が1名突然気分不良と